

東北復興支援特別企画として開催しております「棟方志功 祈りと旅」展は7月26日に入場者数が一万人を超えました。一万人目に来場されたのは新城市から来られたご夫妻で美術館長から一万人目を告げられるとても喜ばれていました。



この展覧会は当初17世紀から20世紀のフランス美術の名品を紹介するプーシンキン美術館(ロシア)展が予定されていた時期(7月9日から9月4日)に、原発事故のために中止になってしまった同展覧会に代わるものとして開催しております。

ただ代わりの展覧会ということよりも、「東北復興支援特別企画」と銘打っているように、東北にゆかりのある作家を取り上げ(棟方は青森県出身です)、展覧会場では義援金を募るだけでなく、チャリティグッズを販売してその収益を東北の復興と文化財の救出のために送ることもしています。



おかげさまで、展覧会はその充実した内容と量(大回顧展といってよいものです)により、大変ご好評をいただいております。これまでもNHKやCBCなどの放送や中日新聞などマスコミにも取り上げられ、来館者は増えています。夏休み期間でもあるので、ぜひお子様連れでご来館いただき、棟方の世界を堪能していただければと思います。

なお、美術館は作品保護のために温度設定が低めになっていますので、冷房に弱い方はちょっと羽織るものをお持ちいただくと便利です。また、版画作品は紙なので、照明もやや暗めになっていますのでご了解ください。



愛知芸術文化センターではこの一週間を東北復興支援ウィークとしてチャリティコンサートや報道写真展などいくつかのイベントを開催して多数の方から義援金を寄付していただきました。

支援ウィークの最後のイベントとして、芸術文化センター10階美術館の入口付近で、名古屋場所が終わったばかりの福島県出身の大相撲の関取、玉乃島関のサイン会が開かれました。写真のように大勢に方にお越しいただきました。そして玉乃島関も棟方展を鑑賞していただきました。

(S.T.)